



今年度は附属小の
「創立150周年」です。
ワクワクでいっぱい年にしていきます！

令和6年度 附属小学校だより

スマイル⁴ふぞく



第3号 令和6年5月30日（木） 校長 古野 祐一

運動会の応援に感謝！

5月18日（土）の運動会は、晴天の中、保護者の皆様の温かい応援をいただきましたおかげで無事に終わることが出来ました。運動会当日、子供たちが見せてくれた輝く笑顔は、私たちが目指す「スマイル附属を創る」ことを体現した最高の表現でした。もちろんここまでの道のりは、順調なことばかりではありませんでした。閉会式の児童代表の言葉に運動会での成長が表れています。一部掲載し、努力と成長を讃えたいと思います。



1年生代表の言葉で
元気よくスタート。

三色対抗リレー選考会の結果、代表に選ばれませんでした。また、応援団長に立候補しましたが、それも選ばれず悔しい思いをしました。でも、最後の運動会。みんなのために頑張ろうと気持ちを切り替えて臨むことにしました。同じ色の下級生に、リレーや団体競技を教えにも行きました。上手く伝わらず出来なかつたりすることもありました。それでも教えていく中で、私が言うことを一所懸命聞いてくれて全力で頑張っている姿を見て、嬉しい気持ちになりました。自分たちの学校は自分たちで創る。そのために、自分が動くことで楽しい学校になっていくことが少し分かりました。私はこの運動会で、たくさんの悔しい思いを味わいましたが、それを乗り越え、成長することが出来ました。本当に私にとって最高の運動会になりました。

楽創6年TOP1組 伊東 煌理



黄・赤・青組の応援
合戦が見事でした。

上手くいかないことがあっても、やる気を失わず前へ進んでいく力が備わっていることに感心します。「楽しさを創ろうとする北斗の子たち」を代表するスピーチが、この運動会の成功を物語っています。北斗の子一人一人の、運動会で見せた努力を積み重ねる姿、何度も挑戦する精神が、今後の日常に活かされていくと信じています。



閉会式で堂々と挨拶する伊東さん。

スマイルチーム活動が始まります！

5・6年生が、スマイル附属をもっともっといい学校にしていくための取組を始めました。これまで「委員会活動」と言われてきた児童会の活動を根底から見直し、新たに創りあげる活動です。「たくましさ、かしこさ、やさしさ」の三つの視点で、自分がやってみたいと思える活動を考え1学期の間、取り組みます。2学期は新たに挑戦してみたい活動に移行していきます。初めてのことでありますので試行錯誤しながらです。こうしたことにチャレンジする子供たち、支える職員を頼もしく思います。進捗状況を随時お知らせいたします！



スマイルチーム活動の
始まりの会。

※裏面に続きます！

子どものちから

テレビ朝日系「博士ちゃん」という番組があるように、世の中には、特定分野の好奇心によって、大人顔負けの知識を身に付けた子どもがいます。本校にも驚くほどの知識を身に付けた博士がいます。

【3年生日本史博士】

1年生時に図書館の歴史漫画を全て読破。現在、5cm程ある歴史書を読んでいます。

先日、その子と幕末歴史クイズをしました。こちらが出す問題は全て答えた上に、補足説明を付けてくれました。完敗でした。

【3年生魚博士】

知っている魚介類の数は千種類以上。今は、クサフグを実際に飼育し、研究を進めています。

魚博士のすごいところは、魚の名前を伝えると、特徴を捉えた細かい描写まで、さらさらと描けます。教室には、その子が描いた魚の絵が飾られています。

北斗の博士ちゃん

【6年生鉄道博士】

お小遣いは全て鉄道模型に、愛読書はJRの時刻表です。

路線や時刻表の関係を考えることで自ずと論理的な思考につながり、現在はその力を生かし、自作コンピューター制作も行っています。

他にも、自動車博士、昆虫博士、恐竜博士、ポケモン博士、鉱石博士、古文学博士…、様々な北斗の博士ちゃんに出会ってきました。卒業後は、その探求心をもとに学びを深め、様々な分野で活躍しています。そのような教え子に会う度に、子どもが本当にやりたいことを、とことん追求することの大切さを考えさせられます。好きなことに没頭することで、知識を得るだけでなく、物事の真理を追求する術を学んでいるようです。

きっかけを作るのは私たち大人の役割ですが、最終的に選ぶのは子どもです。子どもの可能性を信じたいものです。

教頭 橋田 晶拓

教えから学びへ²

チャレンジを楽しむ

先日、第6学年副担任 野田教諭による理科の学年授業が行われました。学年授業とは、同学年の職員に授業を公開し、協議を通して成果や課題、改善案等を見だし、授業力の向上を目指すというもので、本校で伝統的に行われているものです。



野田教諭の得意技はICT。子どもが必要に応じてパソコンで情報を得たり、実験を通して得られた情報を分かりやすく発信したりするなどの「情報活用能力」を高める手立てが練られた授業でした。このような力は、あらゆる学習の基盤となるものであり、6年生に限らず全校的に取り組むことで、自律した学びをさらに促進させていく可能性があると感じたところでした。

子どものチャレンジを後押しできる学校として、まずは私たち職員が「授業をこなす」のではなく「チャレンジを楽しむ」ことを大切にしていきます。

主幹教諭 松尾 勇哉

身近な幸せ

関わるからこそ好きになる

本校において運動会は大きな意味をもちます。それは、一人ひとりが大きく伸びる絶好の機会だからです。本年度も数々のドラマがあり、その主人公である子どもたち一人ひとりが、成長することができました。多くの御声援ありがとうございました。

実は、本年度は例年とちがう朝の様子が見られました。朝掃除をしているはずの6年生の姿がないのです。どこにいたのかというと…。



運動場で、下級生と一緒に練習していたのです。これまでの経験を下級生に優しくも熱を込めて伝える姿がありました。

印象的だったのは、その6年生を見つめる下級生の眼差しでした。どの瞳も輝いていました。憧れの感情が生まれる瞬間を目にした心地でした。

関わってもらえたから好きになる。関わってもらえたから憧れる。そして、そんな関わりができるのは学校ならではのものです。運動会は終わりましたが、6年生に習って多くの関わりを大切にします。

教務主任 野口 拓也